

男女 共同参画 コラム①


僕は、柴犬のポチ。わが家はおばあちゃんと、共働きのお父さんとお母さん、小学校6年生の翔君、小学校4年生の歩美ちゃんとの5人と1匹家族。


これから、わが家やご近所さんとの暮らしの中のエピソードを紹介していくよ。ぜひ読んでね。





男も女も助け合って仲よしで

僕は、毎日散歩に連れて行ってくれる歩美ちゃんが大好き。歩美ちゃんは、散歩をしながら、僕にいろいろな話をしてくれるよ。

 歩美：ポチ、今日学校でね、友達のユキちゃんちと私んちの違いが分かったの。うちは、パパが毎朝洗濯するし、時々料理もしてくれるけど、ユキちゃんのパパは「料理も洗濯も掃除もママの仕事」と言って何にもしないから、ママがよく怒っているんだって。

 ポチ：ふ～ん。どうして、ユキちゃんのパパは「料理や洗濯はママの仕事」と決めているのかな。

 歩美：どうしてかなあ。ポチ、うちはパパもママもお仕事をしていて、料理が上手なパパと、アイロン掛けが得意なママ。助け合ってとっても仲よしだよ。学校の先生も言っていたけど、仕事も家の事もそれから、隣同士のお付き合いも、みんなですることが大事だって。

 ポチ：そうだね、家族みんなで協力して仲よしだと僕もうれしいワン。

性別役割分担意識の解消を

「男は仕事、女は家庭」というように、性別で役割を分担すると、女性は結婚・出産により、仕事を続けたくても続けにくくなります。

日本女性の就業率のグラフは、20～30歳代で落ち、子育て後の復職で上昇するアルファベットの字となり、先進国では日本だけの特徴です。男性の育児休業制度の取得率は、女性72.3%に対し、0.50%（H17年）で、男性が育児参加をしたくても、仕事を優先せざるを得ない状況がうかがえます。さらに、毎日の生活の中でのさまざまな慣行から、若い世代にも固定的な役割分担意識が引き継がれてしまうことにもなります。

男女とも自分の希望がかない、ともに参画してさまざまな活動を分かちあっていく社会になるよう、呼びかけることが必要です。

▽問い合わせ

企画課男女共同参画担当 ☎内線 333

男女 共同参画 コラム②

めっきり寒くなったね。僕は柴犬のポチです。今日は休日。共働きのお父さん、お母さんは、翔君（小6）と歩美ちゃん（小4）を連れてお買い物。留守番のおばあちゃんと僕のところに、お隣の達也さんが来たよ。



「おーい、お茶…だよ。」



お隣の達也さんは今年会社を定年退職。昨日、会社で定年前セミナーがあったんだって。

達也：私も結構、団塊世代の働きバチで、これまでには家に帰ると「メシ、フロ、寝る」。茶の間では「おーい、お茶」組だったけど、セミナーでこれからは「おーい、お茶」のあとに「だよ」が付くのを覚悟しろって。

おばあちゃん：なに？ その「だよ」は。

達也：パートや社会活動から帰ってくる妻を「おーい、お茶が入ったよ」って、迎える側になるらしい。

おばあちゃん：結構なことね。料理も覚えて、光子さんを喜ばせてあげなくちゃ。これからは夫婦の関係が一番大切。その次が地域とのつながりよ。

達也：そういえば、近所付き合いもみんな彼女任せで何にも知らないからな…。

おばあちゃん：そうよ。まずは光子さんの介護ボランティア、手伝って見たら？ 送り迎えの運転手が足りないって困ってたわよ。

男性のための男女共同参画

男女共同参画というと、女性の地位向上など女性のための施策が大部分と思われがちで、男性にとっての意義やメリットがまだまだ認識されていません。また、わが国では「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担意識が特に男性に強く現れています。しかし、定年後約20年、心身とも豊かな生活を送るためには、家族とのかかわりや、ボランティア・地域活動がとても重要です。企業においても、人口減少が見込まれる中で優れた人々を雇用し、定着させるために「仕事と生活のバランス（ワーク・ライフ・バランス）」の推進が必要です。

男女共同参画社会とは、男性が仕事ばかりでなく、家庭や地域での活動に積極的に参加することにより、生活や暮らしが充実し活性化する社会です。

男女 共同参画 コラム③

まだまだ寒いね、僕は柴犬のポチ。
おばあちゃんと共働きのお父さん、お母さん、
翔君（小6）と歩美ちゃん（小4）は、夕食後の
ひと時、テレビを見ているよ。僕が歩美ちゃんの
ひざの上でウトウトしていると…。



「歩美ちゃん、末は総理大臣？」

テレビのニュースでは、“ 県で初の女性知事誕生” がトップニュースです。

歩美：カッコイイ！！



翔：え～っ！ 女の人が知事？



お母さん：女の人が知事になると不思議なの？政治の場で、物事を決めるのは男性という思い込みはどうかしら？女性がもっと議員や大臣にならなくちゃ。



お父さん：この町の町内会役員は全員男性、女性の市会議員は2人だけだね。市民の生活を良くするための審議会の委員も、ほとんどが男性だって。



おばあちゃん：いろんな意見を聞くためにも、偏らないほうがいいねえ。女の方は、毎日の暮らしの中から、消費者や生活者として意見が言えるよ。



お母さん：周りも、女性が能力を発揮できるように応援しなくてはね。

歩美：私、総理大臣になる！



翔：それじゃあ、テレビを消すから今から勉強、勉強！

歩美：え～っ！

政策方針決定の場での女性登用

男性と女性の立場を入れ替えてみましょう。

「女は仕事、男は家庭」

職場は女性社員が多く、幹部のほとんどが女性です。女性の昇進は早く、男性は滞りがちです。また、物事的意思決定過程にかかわるのはほとんどが女性、としたら…。これを「ちょっと、変だ」と思ったら考え直してみましょう。

男性が多くを占める審議会委員。市では、女性の割合が平成22年度までに30%以上になるように努めます。また、女性行政職員の管理職への登用を推進します。

男性と女性は半数同士。調和の取れた社会を形成するためには、女性も男性も同じように、能力と活力を生かすことが必要です。

男女 共同参画 コラム④

つくしを見つけたよ、春だね。柴犬のポチです。
今日は休日。おばあちゃんおばあちゃんと翔君しょうくん(小6)、歩美ちゃんあゆみちゃん(小4)はお出かけで、共働きのお父さん、お母さんと僕が縁側でのんびりしていると、お父さんが話し始めたよ。



「おやじの会」ってなに？

- お父さん(以下、父):「おやじの会」って知ってる？入会しないかって、PTA会長の山田さんから誘われたんだ。
- お母さん(以下、母):「おやじの会」？
- 父:おやじの居場所づくりと仲間づくりを目的に、山田さんの声かけで、できたんだって。
- 母:なるほど。家庭や地域でお父さんの影は薄いからねえ。それで、その会は何をするの？
- 父:まずは、親交を深めるための飲み会。それから、町内歴史散策や餅つき大会をしようって。
- 母:あなたは、飲み会が目的なんでしょ？
- 父:それも楽しみだけど、会社と家の往復になりがちな自分が、地元のいろんな人との出会いや地域を知ることができることも魅力あり、かな。
- 母:そうね、その積み重ねで地域に居場所ができて、自分も楽しみ、肩肘張らずに毎日を充実させられるってわけね。入会に賛成よ。私も参加したいから、パートナー同伴の行事も作ってね。

地域活動への男女共同参画の促進

少子・高齢化、国際化、家族形態の多様化など、社会変化が大きく進んでいます。そこで、地域社会が安全・安心で住みよい場所であり続けるためには、男女がともに地域を支える一員として、地域活動に取り組む必要があります。

地域の活動は、女性の熱意と能力を活用することによって活気が出ます。さらに活性化させるには、男性の活動への参加が不可欠です。男性は、会社組織で培ってきたノウハウを活かし、貢献することが可能です。

地域社会は、男女が共にその活動に取り組むことによって元気になり、大きく豊かに進展します。

男女
共同参画
コラム⑤

こんにちは。柴犬のポチです。わが家は、4月に中学1年になった翔君と小学5年になった歩美ちゃん、共働きのお父さんとお母さん、それからおばあちゃんの5人と1匹家族。今日は、お母さんの妹の陽子さんと、その娘のミッチャン(小5)が遊びに来たよ。



お母さんは、バスの運転手

陽子さんは中学生の頃、たまたま乗ったバスの運転手が女性でかっこ良かったので、自分もバスの運転手になったんだって。ミッチャンも応援してるよ。

ミッチャン：あのね、春休みに歩美ちゃんとおばあちゃんと名古屋のデパートへお買い物に行ったでしょ。そのとき乗った電車の車掌さんが女の人だった。あの人もかっこ良かったね。

歩美：うん、かっこ良かった。

陽子：そうね、電車の車掌さんや運転士も、私のようにバスの運転手も女性が増えて、よく見かけるようになったわね。最近は、飛行機のパイロットにも女性がいるそうよ。

ミッチャン：そういえば、翔君は小さい子が好きで、保育士さんになりたいって言ってたし、うちの近くの病院にも、男性の看護師さんがいたよ。

お母さん：このごろは少しずつ、女性だから、男性だからという枠にとらわれないで、希望する仕事を選べるようになってきたみたいだね。

就業機会の拡大と働き続けられる社会

以前は、バス、電車の運転や飛行機の操縦は男性の仕事、保育や看護は「保母さん」「看護婦さん」と呼ばれていたように、女性の仕事とされてきました。

1986年、男女雇用機会均等法が施行され、あらゆる分野で女性の就職先が広がりました。しかし、日本では、就職しても性別役割分担意識が強いため、多くの20～30代女性は、結婚・出産に伴い退職します。子育て後に復職しても、非正規雇用とならざるをえない状況です。

女性が、結婚・出産してもそれ以前と同様の条件で、働き続けることができるように、行政、地域、企業をはじめ、あらゆる方面からの支援が必要です。

男女 共同参画 コラム ⑥

こんにちは。柴犬のポチです。今日は火曜日。
お父さんとお母さんはお仕事で、翔君と歩美ちゃんは
学校へ行ったよ。春たけなわで天気がいいので、おば
あちゃんは、僕を連れて公園までお散歩。すると、公園
には赤ちゃんとお若いパパがいて…。



「オトコの育休」

- おばあちゃん：こんにちは。かわいい赤ちゃんね。
今日はパパが子守りなの？
- パパ：妻が仕事を続けるために、今僕が3カ月間の
育休中なんです。公園や子育て支援センターへよ
く出かけ、色んな人に声をかけてもらって助かっ
てます。
- おばあちゃん：パパは大活躍ね。でも、戸惑うこと
もいっぱいでしょ？
- パパ：そうなんです。離乳食や僕たちの食事の支度
とか。それと、泣きやまないとおろおろしちゃう。
妻や母親の苦労を実感しましたね。
- おばあちゃん：でもそれで夫婦のコミュニケーション
も活発になり、夫婦仲も円満になったでしょ？
- パパ：そう思います。おかげさまで、職場の理解が
あったし、僕は恵まれていると思います。
- おばあちゃん：まだまだ「オトコの育休」は十分認
知されていないわね。これからもっと多くの男性
が取れるようにならなくてはね。

仕事と家庭の両立支援

男性の子育てへの参加は、男女共同参画の体
現です。「男は仕事・女は家庭」「男は主要な業
務・女は補助的業務」など、古い役割分担の考
え方が強い社会の現状を、打ち破る第一歩です。

少子高齢化が進み、労働力人口が減少する中
で、女性の能力の活用が求められています。ま
た、女性の自立や夢をかなえるための社会進出
も重要で、働きながら子どもを育てやすい社会
環境が必要となっています。企業側も優秀な人
材を確保するために、企業内保育所の設置や育
児短時間勤務制度など、子育て支援に力を入れ
る企業が徐々に増えてきました。

今後も、仕事と家庭の両立のため、さまざま
な支援が必要です。

男女 共同参画 コラム⑦

僕は柴犬のポチ。うちのおばあちゃんは、育児などを地域で支援する「ファミリー・サポート・センター会員募集」のチラシを見て、援助会員になったんだよ。おばあちゃんは、今日もヨッチちゃん(4歳)を保育園から家に連れてきたよ。



「ファミサポ」会員になって

ヨッチちゃんのママは毎月3日間、夜8時まで残業があつて大変。そこで、夕方6時までの延長保育の後、託児を「ファミサポ」をお願いしたんだって。

ママ：こんばんは。お世話になりました。

おばあちゃん：おかえりなさい。ヨッチちゃん、お利口でしたよ。夕ご飯もいっぱい食べて、お風呂も入りましたよ。

歩美：ヨッチちゃんとお風呂に入ったよ！

ママ：歩美ちゃんが可愛がってくれるから、この子もこちらへ来るのを楽しみにしてるんですよ。

おばあちゃん：仕事を続けながらの子育ては大変でしょ。

ママ：ええ、でも延長保育もあるし、「ファミサポ」を通じ、地域の方たちに助けていただけるので、がんばれます。それに、会社の子育て支援の制度も利用できるし。

おばあちゃん：そうね、行政や企業、それに地域が協力して子育てを応援すれば、安心して仕事が続けられるわね。

次世代育成の推進

核家族化や少子化で子育て環境が変化する中、これまで以上に育児支援の強化が必要になってきています。育児の相談相手が少なく、ひとりで不安を抱える母親は、ストレスも高くなり不安が増大しやすいと考えられます。そこで母親の不安を軽減し、働き続けやすくするために、行政では保育サービスの充実や乳幼児医療費の助成などを進めています。また、事業所では次世代育成支援対策推進法による「一般事業主行動計画」を策定し、職場の子育て環境を整備しています。そしてファミリー・サポート・センター事業では、地域とのつながりにより子育て支援を実施しています。








経験豊富な高齢者を含む地域の力は、働くお母さんたちの力強い味方です。

男女 共同参画 コラム⑧

日曜日が大好きな柴犬のポチです。今日はおじさん(母の兄)が、おじいちゃん(トシオさん)の喜寿(数え77歳の祝い)の内祝いで赤飯を届けてくれたよ。おじいちゃんは、半年前に脳梗塞で倒れたんだけど、運良く今は回復に向かっているんだって。



おじいちゃんの介護では

-  おばあちゃん：トシオさんの具合はどう？
-  おじさん：おかげさまで。今は、介護保険制度を利用して平日はデイサービスセンターへ通っているんですよ。そこでリハビリをしているので、少しずつ歩けるようになってきました。
-  おばあちゃん：そりゃあよかったわね。でも家にいるときは？
-  おじさん：妻は家でピアノを教えるから、午後のレッスンがあるときは、私がおじいちゃんの食事の世話をしています。それに風呂の介助は私の受け持ちなんですよ。
-  おばあちゃん：えらいねえ。
-  おじさん：でも、介護は妻だけじゃ無理ですよ、大変なもの。
-  おばあちゃん：ほんとにそう。でも、これからもし困ることがあったら、市の地域包括支援センターでいろいろな相談ができるそうよ。一度のぞいてみるといいわね。

高齢者・障がい者福祉の充実

高齢化は急速に進行し、平成26年には4人に1人が65歳以上になると推測されます。そうした中、介護の負担が家族、とりわけ女性に集中することがないよう、社会全体で支える介護保険制度を充実させ、活用することが必要です。また、高齢者を、社会を支える重要な一員として捉え、雇用機会を提供することが大切です。そして、介護予防の観点からも社会参画、生涯学習活動やスポーツを楽しむ環境を一層充実させなければなりません。

また、障がいのある人が地域の中で自立した生活を送り、社会の構成員として参加するためには、生活に必要な技能を身につけるとともに、社会基盤の整備や福祉サービスの提供が重要です。

市民一人ひとりが高齢者・障がい者に対し、理解を深め十分な配慮をすることが望まれます。

男女 共同参画 コラム⑨

僕は柴犬のポチ。夕方僕と散歩に行く途中、お母さんはお隣の鈴木さんちへ回覧板を届けに行ったよ。鈴木さんちは、11月に赤ちゃんが生まれるって。それで、保健センターの「パパママセミナー」を夫婦で受講したんだって。



母体と新しい命への責任

- お母さん：暑い時期におなかが大きいと余計に暑いし、大変よね。
- 鈴木（夫）：僕も「パパママセミナー」で、お腹に赤ちゃんの重さぐらいのおもりを巻いて妊婦の疑似体験をしたんだけど、階段を降りるときは下が見えなくて、ホント怖かった。
- 鈴木（妻）：助産師さんが、出産に向かう母体の変化とその時の注意点を話してくれたおかげで、この人、優しくなったみたい。
- 鈴木（夫）：僕はいつも優しいよ。
- 鈴木（妻）：はいはい、そうね。（笑）
- 鈴木（夫）：赤ちゃんのお風呂の入れ方も教わったんですよ。
- お母さん：それじゃあ、お風呂はパパの役目に決定？うちでもパパがお風呂に入れてくれてたわ。
- 鈴木（妻）：がんばれ！
- お母さん：妊娠することは、母体と赤ちゃんへの責任を男女が分かち合うということだって。だから子育ても助け合ってね。

母性保護の充実

母性とは、女性が妊娠・出産するための大切な特質で、社会全体で保護すべきです。女性自らも、思春期から更年期にいたるまでの、妊娠・出産・避妊・不妊・性感染症など、生涯を通じた性と生殖に関する健康に気を配り、意識を高めていく必要があります。若年層の望まない妊娠を減少させるためには、10代の早い段階から、心と体の発達に応じた適切な教育が必要で、家庭・学校・地域などの関係者が連携して取り組むことが重要です。

男女がお互いの体の仕組みや特質を理解し尊重し合うことができるように、母性について学ぶ機会を充実させるとともに、生涯を通じた性と健康についての教育や相談などの充実を図らねばなりません。

男女 共同参画 コラム10

僕は柴犬のポチ。僕のコラムもいよいよ今日が最終回。
これまで読んでくれてありがとう。最後に、うちのラブ
ラブエピソードを紹介するね！



「シャルウィー…」共に参画しませんか

- お母さん：きょうね「シャルウィー」の学習会へ行ってきたよ。
お父さん：なに？それ。
お母さん：英語で「一緒に…」という意味よ。男性も女性も、家庭や職場や地域づくりに共に関わって住みよい社会になるよう、いろんな活動をしているグループなの。
お父さん：ふ～ん。
お母さん：うちでは、パパも料理やアイロンがけをするけど、それはまだまだ少数派なんだって。
お父さん：そういえば、うちの部長、親の介護を奥さんに任せっきりだったから、奥さん、疲れて寝込んでしまったって。
お母さん：男性も会社の仕事ばかりでなく、地域や家のことにも目を向けて、お互いに助け合おうってことよ。
お父さん：それが「男女共同参画」なんだよね。
お母さん：ピンポーン！うちって、結構「男女共同参画」なのね。
お父さん：それって、僕のお陰？
お母さん：しょってるう！（笑）

男女共同参画社会への推進体制の充実

男女共同参画社会の実現をめざすためには、人々が社会の制度や慣行に目を向け直し、男女共同参画の視点に立った意識改革を行うことが重要です。

市では、「常滑市男女共同参画プラン」の効果を高めるため、具体的な事業計画を策定し、計画的に取り組むとともに、市職員による男女共同参画推進会議を開き、市役所の中の連絡調整を図っています。そして、市民の声が反映される取り組みができるよう、男女共同参画社会推進団体の活動を支援しています。

また、国や県をはじめ、事業所や男女共同参画社会推進団体などとも連携を密にして、総合的かつ効果的な取り組みを続けるために、推進体制の充実を図っていきます。